

ドイツの子供の唱え言葉 韻詩 歌についての一考察

島 信子

Betrachtungen zu deutschen Sprüchen, Versen und Kinderliedern

Nobuko SHIMA

緒言

ドイツには古くから伝わる子供の唱え言葉、韻詩や子供の歌が多くあるが、昔のような社会の中での口伝による存続は不可能になっている。一方では新しい言葉も沢山生まれている。以前から個人的に調査を続けてきたことをまとめ、ここでは18世紀から20世紀にかけてのドイツで一般に口伝によって親(社会)から子供たちへ伝えられてきた唱え言葉、子供の歌について考察する。ここで言う「ドイツ」はドイツの国というより広くドイツ語を母国語として話す地域を指すことにする。

これらは大きく分けると次のように分けられる。

- ・ Sprüche 唱え言葉、決まり文句
- ・ Verse (Reime) 韻詩
- ・ Lieder 歌

Spruch と Vers の違いは厳密には分けにくいものもある。唱え言葉や韻詩には旋律のつかないものと Weise (簡単な旋律) のついたものがあるだけでなく、同じ詩に Weise が付かないものと付くものがあることがある。また同じ唱え言葉や韻詩に全く異なった旋律が付いていることもある。このような事は広い地域の中で、現代のようなマスメディアがなかった時代に、社会生活の中で人々に語り、歌い継がれていたものであったからであろう。旋律には Weise (簡単な旋律) と Melodie があるが、それについては本論 X、XI に述べる。

韻を踏んだ決まり文句や Weise のついた歌の中には Des Knaben Wunderhorn (子供の不思議な角笛) から引用された歌詞もあり、人々の生活の中で

自然に生まれた言葉でできている。それらは「芸術」や「教育」を意図していないように見える。だから生き生きとして面白く、躍動感があるのだと思う。しかし時代が変われば古いものでは役に立たないこともあるのは否めない。その辺は本論の課題ではないということにする。

また、これらの言葉は原語で読み歌うことに意味があるものであるから、ドイツ語で声に出して読んで初めて、言葉の「意味」ではなく「音=おん」の意味が理解できるということを前提で話を進めたい。

Sprüche, Verse には簡訳を、または簡単な説明をつけ、Lieder には短いコメントをつけてある。

また、これらのドイツ語の綴りの中には旧綴りもあり、現在のそれとは異なる場合がある。またウムラウト表記が出来ない場合は [-e] を添え B を ss とする表記法を使用する。

1. おまじないの Spruch

1. 幼児の頃ころんで軽い怪我などした時に、「痛い痛いのとんでいけー」と言って癒してもらったことのある人は多いと思うが、ドイツにもやはり同じように「おまじない」の文句がある。

a) Heile, heile Segen! 治れ治れ、お恵みを!

Drei Tage Regen, 三日間 雨が降り

drei Tage Sonnenschein, 三日間 日が照ったら
dann wird's wieder besser sein, また良くなるよ

b) Heile, heile Gänschen, 治れ治れガチョウさん

das Kätzchen hat ein Schwänzchen, 猫には尻尾
Heile, heile Mäusespeck, 治れ治れねずみの脂身

in hundert Jahren ist alles weg. 百年たったらみな消える

1. Heile, heile Segen!

Wenn das Kind sich wehgetan hat

Hei - le, hei - le Se - gen! Drei Ta - ge Re - gen,
drei Ta - ge Schnee: 'stut schon nim - mer weh!

Allgemein bekannt

1 - c)

参照譜

治れ治れお恵みを

三日雨降り

三日雪降り

そしたらもう痛くない!

c) Heile, heile Segen, 治れ治れ、お恵みを
Drei Tage Regen, 三日間雨がふり
drei Tage Schnee; 三日間雪が降る
'stut schon nimmer weh! もうぜんぜん痛くない!

(注)例3) は Weise がついている例がある。

* 唱え言葉の最後にフツと息を吹きかける。

(譜例1)

II. 幼児、子供と遊ぶ

幼児をあやす時、Sprüche や Verse を言いながら幼児の体のどこかを触って遊んだり、手指で遊ぶものがある。

a) Daumen neig dich, Zeiger streck dich, Mittlerer bück dich, Ringfinger heb dich, Kleinstfinger duck dich.

* 親指から小指まで順に言葉の指示に合わせて、曲げたり、伸ばしたりする。

b) In unsrem Häuschen (両手で屋根の形を作り) sind viele Mäuschen, (指をばらばらと動かす) Sie trippeln und trappeln, (子供のお腹の上で) Sie zippeln und zappeln, (指を動かす) sie stehlen und naschen, und will man sie haschen

-鼠が逃げちゃったと

husch, sind sie weg. 言って (耳をくすぐる)

* お座りができる子供に、或いは膝に子を抱いて大人が上記の言葉を言いながら表情豊かに遊ぶ。

c) Es war einmal ein Würmchen,

指を這う虫に見立て

das klettert' auf ein Türmchen, 腕に登っていく
da kam ein Stürmchen, 「嵐がきたよ」と言って
da flog das Würmchen 虫は塔から (肩から)
vom Türmchen. 飛んでった

* 上記の対象年齢は1~3歳位。

d) Hoppe, hoppe, Reiter, ばっかばっか騎手さん
wenn er fällt, dann schreit er, 落っこちたら

泣き叫ぶ

Fällt er in den Graben, 溝に落っこちたら
fressen ihn die Raben. カラスに食べられちゃう

Fällt er in den Sumpf, 沼地に落ちたら

macht der Reiter plumps. どしんと音がする

* 子供を膝に乗せて体を両手で抱え、言葉に合わせて床に落としそうにしたり、上下に揺すりながら歌う。同じことを子供が人形を抱いてすることもある。

III. 音(おん)を楽しんで遊ぶ

同じ母音や子音を繰り返すことにより、言葉の訓練になるものが多い。

a) Bum, bam beier,

die Katz mag keine Eier. 猫は卵が嫌い

Was mag sie dann? ジャ何が好き?

Speck aus der Pfann: 鍋の中の脂身 (皮下脂肪)

Ei, wie lecker ist unsre Madam. ジャあ奥様はどんなに美味しいかな

b) Lirum, larum löffelstiel, リルムラルムスプーンの柄

alte Weiber essen viel, 年寄り女は良く食べる

Junge müssen fasten, 若者は断食しなくっちゃ

Brot liegt im Kasten, パンは戸棚にある

Messer liegt daneben, ナイフはその横に

ei, was ein lustig Leben. ああ、愉快的暮らし

* Weise 付きもある。

c) Meine Mu, meine Mu, かあかあ母さんが

meine Mutter schickt mich her, 私をお使いに

ob der Ku, ob der Ku, ケーケーケーキは

ob der Kuchen fertig wär. もう焼けたのか

Wenn er no, wenn er no, もしもし

wenn er noch nicht fertig wär, まだだつたら

käm ich mo, käm ich mo, あしあしあした

käm ich morgen wieder her. また来るよ

* 上記の韻詩は歌にもなっている。

d) Ich wollt, ich wär ein Huhn, 雌鳥だつたらなあ

dann hätt ich nichts zu tun. ンなら何もする事ない
 Ich legte jeden Tag ein Ei, 毎日一個 卵を産んで
 und Sonntags auch mal zwei. 日曜日には二つ産む
 *上記の詩は一番の歌詞。これも歌になっているが、
 歌詞を面白がるのはむしろ大人のようなのである。

e) Denkt euch nur, der Frosch ist krank,
 思い浮かべて、
 liegt nur noch auf der gartenbank,
 蛙が病気で横たわり
 quakt nicht mehr, wer weiss wie lang,
 もうなかない
 ach, wie fehlt mir sein Gesang!
 ああ彼が歌わないなんて！

Denkt euch nur, der Frosch ist krank.
 わかる、蛙が病気

f) Aua schreit der Bauer,
 うあっ と叫ぶお百姓さん
 die Aepfel sind zu sauer, りんごはすっぱ過ぎる
 die Birnen sind zu süß, 梨は甘過ぎる
 morgen gibts Gemüs'. 明日は野菜がとれる
 *上記も他と同じく発音に意味がある。

g) Eine kleine Dickmadam 小さなおデブの奥様
 fuhr mal mit der Eisenbahn, 汽車に乗った
 Eisenbahn, die krachte, 汽車がこわれちゃった
 Dickmadam, die lachte. おデブの奥様 笑った
 *上記の詩にはこの続きがあるものもある。これは
 子供は覚えやすく内容も分かるので喜ぶ。

h) Ri ra rutsch, wir fahren mit der Kutsch,
 子供2人が手を
 wir fahren mit der Schneckenpost,
 交差させてつなぎ、
 wo es keinen Pfening kost, 詩を唱えながら
 Ri ra rutsch, wir fahren mit der Kutsch.
 前に歩く。

*最後の言葉 Kutsch で手を離さずにくると回る。
 歌を繰り返して歌いながら続いて反対方向に同様に進
 み、やはり最後の Kutsch で手を離さずにくると回る。
 人数が多い時は、フォークダンスのように次の人と
 手を組んで同じ方向に進む。

この曲は、唱え言葉として旋律なしでする場合と、
 Weise を付けて歌う場合がある。

これらのIII. a)~h)は現在も言葉を学ぶ幼児向きの
 の本に載っているものもあるが、若い母親で知って

いる人は少ない。知っている場合は本からの知識に
 よる場合が多いが、彼らの親の世代では当たり前
 によく知っている人が多い。

IV. 古くからある大衆的な子供の歌

歌詞から当時の生活の様子が窺える曲があるのが
 興味深い。また子供の歌とあるが、曲によっては小
 さな子供に難しい曲もある。

a) Bakke, bakke Kuchen,
 der Baekker hat gerufen :
 Wer will guten Kuchen bakken,
 der muss haben sieben Sachen :
 Eier und Schmalz,
 Butter und Salz, Milch und Mehl,
 Safran macht den Kuchen gehl.
 Schieb, schieb in Ofen 'nein. (譜例2)

*「ケーキを焼くのに七つのものが要るよ」という
 歌。旋律は Weise。なぜか砂糖ではなく塩とある
 のは韻を踏むためか。

また綴りは現在では Backe, backe Kuchen, と
 なる。

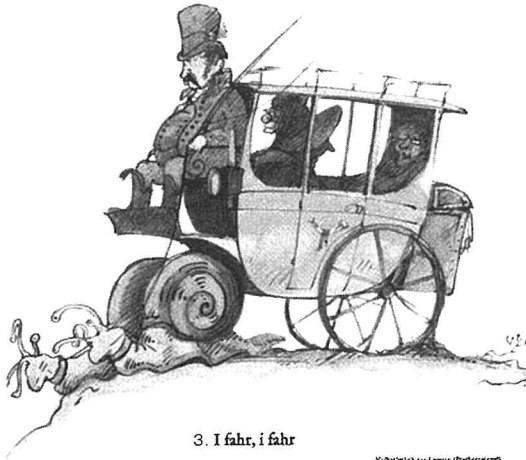
2. Backe, backe Kuchen



IV-a) これも I-c) に似た旋律
 「パンやさんが声かけた！
 ケーキを焼きたきゃ
 7つのものが要るよ
 卵とラード、バターと塩
 牛乳と粉
 サフランがケーキを黄色にする
 さあオープンに押し入れて」

b) I fahr, i fahr, i fahr mit der Post.
 Fahr mit der Schneckenpost,
 die mir kan Kreizer kost,
 i fahr, i fahr, i fahr mit der Post. (譜例3)

*音はドミソだけでできている。元はハンガリー地
 方の歌だったが、今では標準語の歌詞 (Ich fahr)



3. I fahr, i fahr

Vollständlich aus Original (Postkarte genf)

I fahr, i fahr, i fahr mit der Post. Fahr mit der Schnock-ken-post,
die mir kan Kreu-zer kost, i fahr, i fahr, i fahr mit der Post.

IV-b)

歌詞中の「カタツムリ」は馬車がのろまだということを揶揄している。

でピアノの教則本にもよく使われている。歌詞にカタツムリの郵便馬車とあるのは、馬車が遅いことを皮肉ったのであろう。

c) Grün, grün, grün sind alle meine Kleider,
Grün, grün, grün ist alles was ich hab.
Darum lieb ich alles was so grün ist, weil mein Schatz ein Jäger, Jäger ist. (譜例 4)
*昔はもてた狩人。5番までの歌詞に他に粉や、染物や、絵描き、煙突掃除やが登場する。

4. Grün, grün, grün sind alle meine Kleider

Altes Liedchen

1. Grün, grün, grün sind al-le mei-ne Klei-der, grün, grün, grün ist al-les, was ich hab.
Da-rum lieb ich al-les, was so grün ist, weil mein Schatz ein Jä-ger, Jäger ist.

von A. Hen

IV-c)

[緑色のものが皆好きだって私の好きな人狩人なんだもの]

d) Widele, wedele, hinterm Städtele
hat der Bettelmann Hochzeit.
Pfeifet das Mäusele, tanzt das Läusele,

5. Bettelmanns Hochzeit

Wi-de-le, we-de-le, hin-ter-m Städ-te-le hält der Bet-tel-mann
Hoch-zeit Hoch-zeit. Pfeift das Mäu-se-le, tanzt das Läu-se-le,
schlägt das I-ge-le Trom-mel. Al-le Tier-le, die
We-de-le ha-ben, sind zur Hoch-zeit kom-men.

Schwäbisches Scherzlied - Worte auch in „Des Knaben Wunderhorn“

IV-d)

乞食の結婚式
鼠は笛吹き、虱は踊る
尻尾のあるもの皆来るよ

schlägt das Igele Trommel.

Alle Tiere, die Wedele haben,
sollen zur Hochzeit kommen.

* 乞食の結婚式。鼠や鼠、針鼠たちが祝っている。
Text: Des Knaben Wunderhorn (譜例 5)

e) Zeigt her eure Füßchen,
zeigt her eure Schuh und
sehst den fleissigen Waschfrauen zu.

Sie waschen, sie waschen,
sie wasch'n den ganzen Tag,
sie waschen, sie waschen,
sie wasch'n den ganzen Tag.

* 現代ではもういない一日中川で洗濯をする「洗濯女」が歌詞に出てくる。(譜例 6)

6. Zeigt her eure Füßchen

Vollständliches Spielchen

1. Zeigt her eu-re Fuß-chen, zeigt her eu-re Schuh und se-her den
fü-ü-ü-ü gen Wasch-frau-en zu. Sie wa-schen, sie wa-schen, sie
wasch'n den gan-zen Tag, sie wa-schen, sie wa-schen, sie wasch'n den gan-zen Tag.

von W. Galt

IV-e)

「洗濯女を見てごらん
一日中洗っているよ
一日中絞っているよ」

f) Hopp, hopp, hopp ばかばかばか
Pferdchen lauf Galopp, お馬が走る
uber Stock und über Steine,

低木越えて 石越えて
aber brich nicht deine Beine, 足折らないでね
hopp, hopp, hopp, hopp, hopp,

ばかばかばかばかばか
Pferdchen lauf Galopp. お馬が走る
*上記は歌である。歌に合わせてギャロップすることもある。一部歌詞が異なるものがある。ピアノ教則本にも良く見かける曲である。

g) Eia popeia, was raschelt im Stroh?
Die Gänslein gehen barfuss und hab'n keine Schuh'.
Der Schuster hat's Leder, kein' Leisten dazu,
drum kann er den Gänslein auch machen kein Schuh'.

* Text : Des Knaben Wunderhorn
この曲は後にフンパーディンクのオペラ「ヘンゼルとグレーテル」に使われている。この曲には旋律、歌詞共に少しずつ異なるものや、歌詞は同じで旋律が異なる曲等、よく似た歌が沢山ある。

V. 今でも歌われる子供の歌

子供の歌というと子供自身が歌うと思われがちだが、大人が歌うのをじっと聞き入っていることも多い。

a) Alle meine Entchen schwimmen auf dem See,
schwimmen auf dem See,
Köpfchen in das Wasser,
Schwänzchen in die Höh.

*上記の歌は、鴨が水の上を泳いでいる様子を歌ったものである。現在でも愛唱されていて、一番最初に親から聴く歌である場合が多く、ドイツ語を母国語とする人なら自分の子には必ず歌っているはずである。(譜例7)

b) Grosse Uhren machen tick, tack.
Kleine Uhren machen tick, tack, tick, tack!
Und die kleinen Taschenuhren machen ticktack,
tick tack.

*カノンにもなる曲。大きな時計から小さな時計になるとチクタクが早くなる。大人が歌い、幼児がチクタクのところを一緒に歌うと歌いやすい。最近の

7. Alle meine Entchen

V-a)

〔鴨がみんな泳いでいる
水の上、水の上
頭は水の中
尾っぽは上に〕

スタンダードな子供の歌のCDならたいていは入っている。

c) Auf der Mauer, auf der Lauer,
sitz ne kleine Wanze.
Auf der Mauer, auf der Lauer,
sitzt ne kleine Wanze.
Schau dir mal die Wanze an,
wie die Wanze tanzen kann!
Auf der Mauer, auf der Lauer,
sitzt ne kleine Wanze.

* 1 番 [WanzTanZ] 2 番 [WanTan] 3 番 [WaTa] 4 番 [W T] 5 番 [……] という風に Wanze と Tanzen のところをだんだん語尾を減らし最後には無言になるゲームができる。また5回かけて元の言葉に戻す。

[Auf der Mauer] 塀の上と [Auf der Lauer] 待ち伏せや、[Wanz] 南京虫と [TanZ] ダンスなど、言葉を発音しながら、聴く歌ではなく一緒に歌う歌として楽しめる。

d) Alle Vögel sind schon da, alle Vögel alle!

Welch ein Singen, Musizier'n,
Pfeifen, Zwitschern, Tirilier'n!
Frühling will nun einmarschier'n,
kommt mit Sang und Schalle.

*シュレージエン地方から。歌詞は19世紀のもの。今では言葉を替えて幼稚園のお帰りの歌にしている楽譜もある。日本では「霞か雲か」でよく知られている。(譜例8)

e) A B C, die Katze lief in'n Schnee.

Und als sie wieder rauskam,
da hatt' sie weisse Stiefel an.
A BC, die Katze lief in'n Schnee.

8. Alle Vögel sind schon da

1. Al - le Vö - gel sind schon da, al - le Vö - gel, al - le.
 Welch ein Sin - gen, Mu - si - zier'n, Pfei - fen, Zwi - schern, Ti - ri - lier'n:
 Früh - ling will nun ein - mar - schier'n. Kommt mit Sang und Schal - le.

Worte: Hoffmann v. Fallersleben (1798-1874) - Weise: Schlesiache Volkweise

V—d)

明治16年日本に渡り
 「霞か雲か」となった。

*猫が雪の上で遊んでいる様子を歌っている。この曲と同じ曲で歌詞も旋律も少しずつ異なるものがあるのは、地域によって歌い方が異なることと、ザクセン地方からの歌とあるが、広く全域で歌われていたからであろう。

VI. かぞえうた (Abzählreim)

a) Eins, zwei, drei, vier, funf, sechs, sieben,
 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7

eine alte Frau kocht Rüben, 年寄り女が蕪を煮る
 eine alte Frau kocht Speck 年寄り女が脂身煮る
 und du bist weg. そしておまえは あっち行け

b) Eins, zwei, drei. 1, 2, 3

Butter in den Brei, おかゆの中にバターを入れて
 Salz auf den Speck, ベーコンの上には塩かけて
 und du bist weg. そしておまえは いなくなる

c) Ich und du Müllers Kuh, 僕と君、粉屋の雌牛
 Müllers Esel, der bist du. 粉屋のロバ、それは君
 *ロバは「まぬけ」の意味もある。

d) Eins, zwei, drei, 1, 2, 3

auf der Strasse liegt ein Ei. 道の上には卵が一つ
 Wer darauf tritt, それ 踏んだやつは
 der darf nicht mit. 一緒に(遊ぶ) ~ない

* 6のa)~d)の歌は、順に数を数え、最後の du bist weg で子供が「外される」か、der du bist で「その子の番だ」と言われるか、der darf nicht mit で「当てられた子と一緒にできない」ということになる。これだけで単独に使うのではなく遊びの中で必要に応じて使う。

VII. 日本で親しんで歌われているもの

a) こぎつねこんこん

9. Fuchs, du hast die Gans gestohlen

1. Fuchs, du hast die Gans ge - stoh - len, gib sie wie - der her,
 2. Er nimmt sei - ne lan - ge Flin - te, schießt auf dich den Schrot,
 gib sie wie - der her! Sonst wird dich der Jä - ger ho - len mit dem Schießge -
 schießt auf dich den Schrot, daß dich färbt die ro - te Tin - te, und dann bist du
 wehr, — sonst wird dich der Jä - ger ho - len mit dem Schießge - wehr,
 tot, — daß dich färbt die ro - te Tin - te, und dann bist du tot.

Worte: Ernst Anshütz (1780-1861) - Weise: Volkweise

VII—a)

こぎつねこんこん

「狐よ、鶯鳥を盗んだの返しなさい!

狩人が銃を持って取りに来るよ。撃たれて血まみれ死んじやうよ。」

Fuchs, du hast die Gans gestohlen,
 gib sie wieder her!

sonst wird dich der Jäger holen

mit dem Schiessgewehr.

(譜例 9)

b) ちょうちょう

Hänschen klein geht allein

in die weite Welt hinein.

Stock und Hut steht ihm gut, ist gar wohlgenut.

Aber Mutter weinet sehr,

hat ja nun kein Hänschen mehr.

Hänschen klein geht allein in die Welt hinein.

* 歌詞は一通りではない。

c) ぶんぶんぶん

Summ, summ, summ, Bienchen, summ herum.

Ei, wir tun dir nichts zu leide,

flieg nur aus in Wald und Heide.

Summ, summ, summ, Bienchen, summ herum!

* 旋律はボヘミア地方から

VIII. 戦前の Spruch, Vers、詩の暗誦

現在60歳以上のドイツ人たちに聞いてみると子供の頃は Sprüche, Verse, Kinderlieder が当たり前に身の回りにあったようである。当時は学校に入ると名詩の暗誦をたくさんさせられたとも聞く。そういう名詩にはシューベルトやメンデルスゾーンなど多くの作曲家たちが曲をつけていて、後に芸術歌曲のドイツリートを聴いた時、大人になった心には深く感銘を受けるものとなったであろうと思われる。内容的には子供の時に暗誦した時点では、漠然としか

理解できないものがほとんどだったかもしれないが、それが後になって音楽芸術への理解のみならず思考力、感性等の人間形成の下地になったであろうと思われる。

IX. ドイツ語言語の持つ音楽性

ドイツ語には Schwung (弾み、勢い) があり、言葉が韻を踏むとリズムが生まれる。この Hebung=高み(揚格)と Senkung=沈み(抑格)は、決して単純な音量の強い弱いではない。韻詩は Senkung と Hebung を感じながら読むとリズムカルに読むことが出来る。人の体の中にはそのリズムを心地よいと感じる感覚があり、そのリズムに乗ることが詩を歌うところまで導くのであろう。

ドイツでは Ansprache (スピーチ)の本をよく見かける。また行事の際には、見事なユーモアのあるスピーチを明るく堂々と良い声ですることを、聞く側も話す側も双方が期待し楽しんでいるように見える。Anspracheの本は、大人向けのものばかりではなく、解りやすい Grundschule (小学校)の生徒向きの本まであり、人前で魅力的に話すことへの高い評価とこだわりを感じる。ドイツ語の言葉に Schwung があること、そしてその Schwung が歌を歌う上で非常に大切であることと無関係ではないだろう。

その昔、文豪ゲーテが自分の詩に旋律を付けられることをとても嫌がった、というエピソードがあるが、ゲーテの詩のように詩としてすでに完璧なものには音楽は余分であるというのは本当かもしれない。詩にはまず Hebung, Senkung があり、更に読む際に緩急があり、勢い (Schwung) がある。また読む声には感情の変化に伴い音質の変化が常にあるのだから、そこにその上曲を付けるということはゲーテにとっては必ずしも喜ばしいことではなかったのだろう。

実際にドイツリートを歌う時、色々な詩に作曲されたものを歌っていると、何故かゲーテの歌曲は非常にデリケートでコントロールが他より難しいと感じる。これは既に言葉の持つリズムとさらに音楽のもつリズムとが互いに強く主張し合い、時には高め合い演奏者に強い緊張を強いるからであろう。ゲーテの歌曲は「緩む」ところが少なく、緊張の糸が曲全体を通っていると感じる。聴き手をぐいぐい引き

込んでいく、静かな曲でも有無を言わさぬものを感じる。

X. 何曲もある同じ歌

最初は旋律の付かない言葉だけであった Verse が、人から人の口に語り継がれている間に、その言葉の持つリズムと慣れたメロディに乗って、いつの間にか歌になってしまっていた。そう思われる曲が何曲もある。簡単な旋律に乗った曲であっても、普通の子供の歌であっても調性については、譜面なしで歌い継がれてきた曲については、原調については多くは不明である。市販の楽譜には同じ曲に様々な調が付けられていることがあるので、歌にくい場合は移調して歌うと良い。[Alle meine Entchen] に関して言えば C-dur のものから F-dur のものまでである。また楽譜によっては調性だけでなく、同じ曲であるにもかかわらず音や歌詞が少しずつ異なる場合も多い。昔は今より互いに「国が遠く離れていた」訳であるから、同じ曲でも地方によって歌詞や旋律が異なる場合があったのは当然であろう。

XI. 二つのタイプの Kinderlieder と今後の課題

ドイツの子供の歌には、おなじような旋律にのせた簡単な歌がある。(譜例 1、2)

[Heile, heile Segen!] [Bakke, bakke Kuchen]

これらの2曲は皆同じ簡単な旋律で始まり、単純で非常によく似ている。ミソラ(相対音)の音が多く繰り返し使われ、終止音はド、経過音的にドレ(ファ)も使われているが、シ(導音)は見られない。これらの曲に見られる旋律の類似性に目を向けてみると、それらは歌といっても作曲家の手によるものではなく、口伝によるものでありわらべ歌と呼んでもいいだろう。

一方互いに似ず、個性を持って存在するそのほかの多くの歌の中には、僅かだが後に作曲家がそれをモチーフにして、オペラに取り入れたり、芸術歌曲であるところのドイツリートに変身したものがある。或いは旋律ではなく名曲から逆に、その詩に別の歌い易い旋律が付けられ Volkslied になったものもある。

a) [Bald gras ich am Neckar]: この曲は後に Mahler (1860~1911) がラインの伝説 [Rheinlegendchen] を作曲する際、歌詞と旋律を使用し

10. Bald gras ich am Neckar

1. Bald gras ich am Ne - ckar, bald gras ich am Rhein, bald
 hab ich ein Schät - zel, bald bin ich al - lein.

XI-a)

ラインの伝説の民謡

Des KnabenWunderhorn のTextより

「指輪を川に投げ込めば恋人がやってくる……」

た。(1893年) (譜例10)

b) [Das Wandern ist des Müllers Lust] : この曲は W. Müller (1794~1827) の詩による。Volkslied になるより前に F. Schubert (1797~1828) がこの詩に作曲して「美しき水車小屋の娘」の第一曲目となった。

他にもまだ古い Kinderlieder は Volkslieder の子供向きのものも含めると200曲はあるが、新しい Kinderlieder の数は数えきれない。

この他にシュタイナー教育のヴァルドルフ学校用に作曲された曲にも、古くから歌われているドイツの子供の歌の旋律ではなく、歌詞だけの引用が見られるものがある。この学校には沢山の独自の歌だけでなく、独自の韻詩がある。そこには一般の韻詩に時に見られる汚い言葉や、人をあざ笑うようなもの

は見当たらないが、生き生きとした人間たちの喜怒哀楽も見えない。よく吟味された言葉。まるで清潔な無菌室のようにも感じる。しかし古くなって生活習慣に合わなくなってしまった韻詩は、とくに大衆にとって関心の薄いものとなっている。常に時代に即したものが生まれ、それぞれの家庭や保育の場で出会えるようにしていく事が出来れば、次第に淘汰され良いものが残っていくだろう。

大切なことは、子供の頃に自国の Sprüche、Verse や Kinderlieder に親しむことのできる環境と健全な社会があることだと言えよう。

[参考文献]

- (1) Gerda Pighin/Margit Sillaber Eine spielerische Sprachförderung/Pattloch Verlag S. 11~13, 1993
- (2) Tomi Ungerer/Anne Diekmann/Das grosse Liederbuch/Diogenes S. 43, 1975
- (3) Eine Auswahl der Schönsten Kinderlieder in Wort und einstimmiger Melodie/Philipp Reclam jun. Stuttgart/S. 18, 25, 33, 44, 35, 36, 39, 56, 1959
- (4) Deutsche Volkslieder/Philipp Reclam jun. Stuttgart S. 83, 197, 2001